

僕らだって小学生だったんだ

●子ども時代のことを教えてください。

校長：会長さんはどちらの小学校でした

会長：緑山小です。校長先生は？

校長：五色小です。会長さんはどんな小学生だった？

会長：小学生の時は、最初ソフトボールが面白くて、友達と始業前や放課後に校庭でよくしました。それから地域の少年野球チームに参加させて頂いて、火木土日と練習や試合に明け暮れてました。

校長：僕は、良く言えば、わんぱく少年、いじめっこ、いわゆるガキ大将（笑）。毎日よく怒られて、教室の後ろに立たされてたねー。最初は廊下に立たされていたんだけど、先生の目の届かないとたまたま廊下に出ているクラスの組の生徒ともめたりしてね。廊下は結局ダメだという事になってね、今思うと、相当ひどい子どもだったんかもしれません（笑）そのとき印象に残っているのは、先生が持っていた「根性注入棒」。これは普通の丸い棒なんですけど、黒くて、いかにも今までのワルガキの尻を数えきれないほど叩いて来ただろうという色をしてまして、見るからに叩かれると痛そうな棒でした。

会長：わかります。その時の先生の小学生の頃の顔が思い浮かぶようです（笑）僕の場合は、当時の少年野球の監督さんがまさしくそんな感じで、とにかく基本にうるさくて。それと礼儀に厳しい。例えばボールが獲れずに後ろにそれて、誰か後ろにいる人が拾ってくれたら、まず帽子をとって直立不動で深く頭を下げて、大きな声で「ありがとうございます」と一礼。これが中途半端だと、かなり怒られる。最初はなんか照れ臭くて、同じ町の下級生、例えば小学1年生の子が拾ってくれた場合なんか、恥ずかしくて適当にやっているのが、監督さんに見つかったら、「ちょっと来い」となって怒られる。こちらもそんなことでいちいち怒られてたまるかという気があるから、きちんとやるようになりました。慣れたら全然恥ずかしくない。そんなものかもしれませんね。

校長：学校生活での印象は？

会長：お恥ずかしい話ですが私、給食のミニマトが大嫌いで、本当に苦手でなかなか食べれない。今は昔ほど嫌いではないですが、当時は全くダメで。そんなわけである時、野球の試合が昼からあったんです。その時の担任の先生からこのミニマトを食べないと、試合に行ってはダメですといわれて…。早く試合に行きたくて、一つは目を閉じて口に入れて何とか飲み込んだんですけど、その後「オエッ」となって（笑）。結局食べられなくて、最後にはまわりでそれを見ていた友達がパクパクッと、一瞬で片付けてくれて、何とか試合に間に合いました。

校長：なかなか厳しい先生でしたね。

会長：そうですね。僕たちの頃はまだ先生の言葉には、絶対服従というか、今とは違って逆らえなかったような気がします。子どもだったからかもしれませんが…。

校長：いつの時代も、子どもは素直です。いろいろな経験をしていないので、先生の言葉をまっすぐにとらえて、大人が思っている以上に重く大きく受け止めていることが多いです。その傾向は低学年になればなるほど強いんですね。ですから大人は、大切なことはしっかりとその言葉のもつ重みを認識して、伝える必要がありますね。

●緑山小はその時代から自校給食ですか？

会長：緑山小はずっと自校給食で、当時からおいしかったですよ。

校長：僕が一番好きだったメニューは「甘辛く煮たクジラの竜田揚げ」。これはもう忘れられないね。あとは「きな粉パン」「ちくわの磯辺揚げ」本当おいしかった。それでこの前、たまたま同級生と居酒屋に行った時に、懐かしの給食メニューというのがあって頼んでみたんだけど、「あれ、こんなメニューがあったかなあ」と…（笑）

●どんな遊びをしていましたか？

会長：遊びといえば小1の時にファミコンができたんです。だから遊びといえばファミコンか外遊び、その頃この辺りは空き地が多



PTA会長
山本 達輝
緑山小学校
昭和62年卒

校長先生
岡里 新一
五色小学校
昭和46年卒

「世代を越えて、熱い想いを今」

世代も立場も違う二人が、緑山小学校への熱き想いを話しました。
お二人の昔の姿と重なり合う、ざっくばらんな対談を公開します。

かったから、みんなでゴルフ遊びをしていて、空き地に穴を掘って旗を立てて自分たちのコースをつくって「明日天気になあれ」という漫画の「チャーシューメン」とフレーズを真似て遊んでいました。

校長：僕たちの時代は今これをやったら、みんなケガするだろうという遊びばかり、「どうま」や「へそふみ」とか、とにかく過激でぶつかったり、逃げまわったり。ケガはつきもの、骨も折れたりして、でも遊んでいて骨折したとは言わない（笑）私たちが小学生の頃は今と比べると「遊んで、骨折れた？ 気をつけなあかんでえ」という感じでしたねえ。今はそんな訳にはいきませんが。その頃は自然も多いが、危険も隣合わせでした。

会長：僕たちの時も学校内に小池があったり、巨大滑り台とか遊具がいろいろあった。遊ぶものはたくさんあった。あの回る遊具も当時はありましたね。

校長：回旋塔ですね

会長：あれは、何回も遊んだ!!

校長：そう、遊んだ（笑）あれは何年前だろうね、どんどん取りはられたよ。あと面白かったのは、ペーゴマ・メンコもよく遊んだな。

会長：あ、僕もやりました!

●当時はどんなアニメを見ていましたか？

校長：僕は「巨人の星」とかね、女の子たちは「アタックナンバー1」だとか、根性ものだったんですよ。だから、世の中根性で通った。先生から「根性出せ!」家に帰って親からも「根性がない」って言われて、世の中みんなそういう考えだった。

会長：僕の世代は「ドラゴンボール」「北斗の拳」「聖闘士星矢」とか戦いものが始まった。あの頃から、根性ものが週刊誌の巻頭に来なくなった。どんどん戦わせて、かっこいい!強い!って、それ見て強い気になっていたのかな。

校長：テレビは何を見ていたの？

会長：僕はテレビっ子でアニメばかり見ていました。

校長：その頃って、アニメは見るけれど、ニュースは見なかったでしょ？

会長：全く見なかったかも…。

校長：これがね…子どもの番組と大人の番組って、線引きがあったんだよね昔は。けれど、今の子どもたちは世界の情勢やノーベル賞のニュースを知っている。大人と子どもの線引きがなくなっているんじゃないかな。

「人を創る」?? 校長先生が先生になった理由

司会:校長先生はどうして先生になられたのですか？

校長：僕ね、子どもの頃のあだ名が「やまいも」だったんですよ。同窓会で「やまいもが先生かー」って昔の話をしながら、「そういうやつが教員になるのもいいんじゃない?」って言ってくれる人もいてね。私はもともとエンジニアになりたくて、飛行機の整備士のような仕事をしたかった。でも、当時不景気で航空会社が募集してなかったんですよ。そこで最終的に選んだのは「人を作る仕事」…。

会長：かっこいいーな、今の…考えてきたでしょ(小声)。

校長：いやいやいや、私たちの頃、世の中の仕事って、何かを「つくる」仕事が多かったんですよ。それで、やりがいがとか、尊いものって何か…とかを学生の頃考えて。人を創るっていうのは尊い仕事かな、と。今は先生になって良かったなって、心の底から思っています。ガキ大将時代を懺悔しながら仕事をしているわけですよ（笑）。緑山小の子どもたちは、身近に、疑似体験やさまざまな行事が豊富にありますよね。先生の教え方も上手だと思います。私が日頃感じているのが子どもを良くするのに、「不便」「不自由」「不親切」という3つのキーワードがあります。これを試しにやると、子どもたちは伸びますね。今と比べると、昔の方がある意味、先生方は「不親切」だったよなって。ケンカして先生が仲裁に入った記憶がない。「そんなのお前らで解決しろ!」っていわれてそ

れっさり。だから自分たちで解決しないといけないことがほとんどだった。

会長：多分今の先生って、教育に対してすごく丁寧なんですよ。実はそれに気付いたのはPTA活動するようになってからなんです。

司会:これからやってみたいことはなんですか？

校長：私は子どもと直接接する事が大好きで、出来たら全クラスに行っ て授業をやってみたい。私たちの時代の遊びって、人と身体がぶつかり合うみたいな遊びが多かった。私が先生になった時は砂場で子どもたちと相撲を取っていた。そしていつも投げ飛ばしていた。わざと負けたりしない。倒れた時の痛みってこんな感覚だということを知りたい。前の小学校でもよくやりました。昼休みにジャージ着ていつも砂場にいてね、よし、相撲やるぞ!って。1対20くらいで。緑山でもやりたいな。でも骨は折らないよ、安心して（笑）私が送り出した最初の卒業生がもう43歳くらいになるんだけど、この前に飲み会をやったんですよ。そうするとそのあと、LINEで「先生から元気もらいました。子育て頑張ります!」とか送ってくれたり、楽しいですよ。

会長：共感したいんですよ。

校長：そうそう。

会長：話を聞いてもらいたいの。

校長：そうそう。例えば体育館で今日みたいに親同士で「何のテレビ見て育ちましたか?」とか、ざっくばらんに雑談して「あーそれおもしろいよねー」がきっかけで親同士のネットワークができれば、子どもたちにもいいんじゃないかって思います。

会長：僕は前から誰か先生をよんで「保護者の授業」をやりたいと思っているんです。

校長：私やりたいなあ、その講師。

会長：えっ、本当ですか。ぜひお願いします! みんなの話を聞いて、「自分の悩みが意外と大きなことではない」と思えたらいいなと思います。実現は簡単なことではないですが。

校長：会長、何を言ってるんですか!そんなことやってしまったらいいんですよ。いいと思ったら、即実行ですよ。すぐやりましょう!

●緑山を語る!

校長先生は緑山小に関わってきて、地域に対してこうあって欲しいなと思うことはありますか。

校長：まずは自分がアクションを起こすというか。もっとアクションをね。先日の陸上の記録会でカメラマンさんに褒められたんだけど、緑山小の子は元気があって明るいんだって。本当にこの子どもたちは明るいよ、これが緑山の特徴だよ。 「活気」と「明るさ」これはぜひ伝統にしたい。

会長：子どもたちが明るいのは何となくわかります。少なくなっただけけど、子ども会が残っているのは大きいと思いますよ。仲間が多いんですよ。地元とのつながりがちゃんとあって。

校長：そうね、子ども会は少なくなっているけれども、とても大切な団体だと思いますね。今の子育ては孤独になりがちですから、地域の力はとても大切。

会長：子どもは地域の「宝」。コミュニティの中で育てていけるといいですね。

校長：緑山校区って評判が良くて人気で引っ越してくる人が結構多いですよ。でもそんな家庭は親が緑山校区が地元じゃないから、なかなか飛び込んでいけない。そんな人はたくさんいると思います。そういう人たちを迎え入れることが、コミュニティとしてとても大事ですよ。緑山校区に新しく来てくれた人たちも今日みたいにざっくばらんに話ができる場があるといいですよ。僕もそろそろ定年だけど、緑山にはずっと関わっていききたい。辞めても、来ますよ。「会長、元気かー」って（笑）。

会長：ぜひお越し下さい。大歓迎です。

●楽しいお話しありがとうございました。